ADONIS

AM-708E

固定局用卓上型マイクロフォン
（コンプレッサーアンプ内蔵）
取　扱　説　明　書

★この取扱説明書について★

このたびは ㈱エス・イー・シーの固定局用デスクトップマイクロフォンＡＭ－７０８Ｅをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用に際しましては、本機の性能を十分発揮させていただくため、この説明書をよくお読みいただき、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は、保証書と共用になりますので、お読みになった後も大切に保管してください。

★注意事項の定義★

この取扱説明書は、製品を安全に正しくお使いいただくため、注意事項に色々な絵表示をしています。
右記の絵表示の定義（意味）を十分にご理解された上でお取り扱いください。

⚠注意	⚠警告
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

★特長★

●２台の無線機をワンタッチで切換可能
２台の無線機を、スライドスイッチで切り換えられます。
●高性能コンプレッサーアンプ内蔵（ＬＯＷ・ＨＩＧＨ ２段切換式）
音声入力の変化に関係なく出力レベルが一定していて、常にひずみの無い適度な出力レベルで送信できますので、ささやくような小さな声も、破れるような大きな声も、ほぼ同じレベルで運用できます。
●高音質エレクトレットコンデンサーマイク採用
音質のフラットなエレクトレットコンデンサーマイクを使用し、通信に最適な帯域特性に設定していますので、了解度の良い音質が得られます。
●ＦＭ／ＳＳＢ音質切換スイッチ付き
ＦＭ時にはスッキリした幅のある豊かな音声になります。またＳＳＢ時にはメリハリの効いた了解度の良い音声になり、特にＤＸ時においてその効果を発揮します。
●無変調防止回路内蔵
送信状態が２～３分続けばアラーム回路が作動し、警報音が約３０秒間鳴った後、自動的に受信状態に戻ります。
●バッテリーチェック回路内蔵
電源をＯＮ（ＦＭまたはＳＳＢの位置）にしてから約２～３秒間、レベルメーターは電源電圧を示し、電池の交換時期または外部電源の有無を知らせます。
●電源供給型マイク変換コード対応
乾電池（単３乾電池×２本）または無線機（マイクコネクター）のどちらでも電源供給が可能 !!
※無線機のマイクロフォン端子に、電源（ＤＣ５～９Ｖ、２０ｍＡ以上）を供給している無線機で運用する場合は、電源供給型マイク変換コード“Ｄシリーズ”（弊社製別売）で接続すると、無線機から電源を供給することが出来ますので、乾電池は不要です。

★★★仕　　様★★★

マイクロフォン	高感度エレクトレットコンデンサーマイクエレメント１個
ＩＣ	２個
トランジスター	２０個
ダオオード	１３個
コンプレッサーレベル	HIGH:45dB　LOW:35dB
出力電圧	COMP:0～30mV（RMS）　MANUAL:0～70mV（RMS）
適合出力インピーダンス	500Ω～100kΩ
電源電圧	乾電池にて供給の場合・ＤＣ３Ｖ（単３型乾電池２本）
マイク変換コードにて供給の場合	ＤＣ５～９Ｖ
消費電流	受信時：約 3mA　送信時：約 6mA
アラーム音	約 4.5kHz の断続警報音
外形寸法	182(W)×130(D)×322(H)mm(突起部含まず)
重量	約 830ｇ

ご注意およびお願い

⚠警告　無線機へは、ご使用の無線機に適合したマイク変換コード（弊社製別売）で接続してください。
弊社製以外のマイク変換コードを使用すると、正しく動作しない場合や火災・故障が発生する可能性がありますので、必ず弊社製を使用してください。
弊社以外のマイク変換コードのご使用によるトラブル、故障等については一切の責任は負いませんのでご承知ください。

⚠警告　乾電池は、指定されたもの以外は使用しないでください。発熱・故障の原因になることがあります。また、新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。乾電池の破裂・液漏れにより火災・ケガの原因になることがあります。

⚠警告　本体内部に液体等をこぼしたりしないでください。もし、液体等が入った時は、すぐに本体の電源スイッチを切り、乾電池およびマイク変換コードを取り外してください。
そのまま使用すると故障や火災・感電の原因となります。

⚠警告　本機を使用中、煙や異常な発熱等が確認された場合は本機の使用を直ちに中止して、お買い上げ店または、弊社宛て修理をご依頼ください。

⚠注意　乾電池は、できるだけ電池寿命の長いアルカリ乾電池の使用をお勧めします。なお、長時間（１ヶ月以上）ご使用にならない場合は、液漏れ等により故障の原因となりますのでご注意ください。

⚠注意　ＱＳＯ終了時は、電源をＯＦＦにしておいてください。

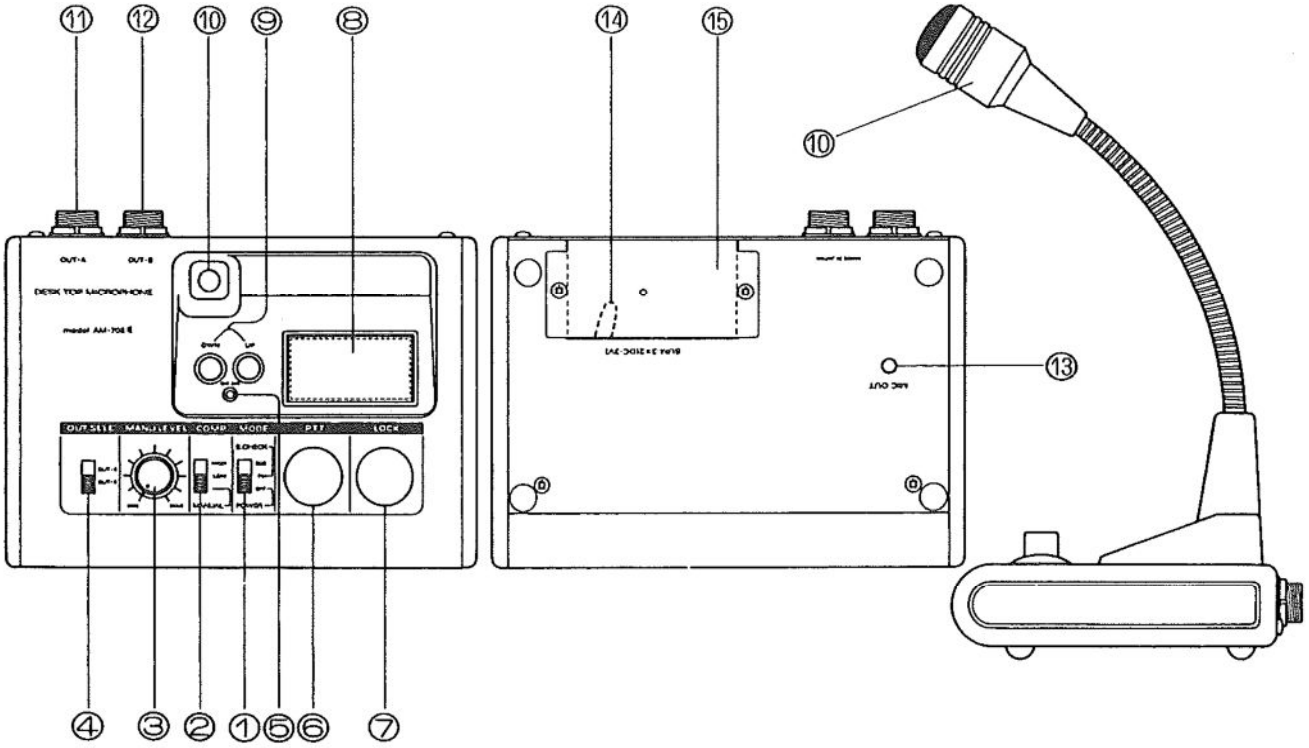
⚠注意　フレキシブルパイプは、無理に曲げたり回したりしないでください。

⚠注意　直射日光の当たる場所や高温になる場所での使用及び放置は、変形・変質を招き本機に悪い影響を与えますので工夫して避けるようにしてください。

⚠注意　本機は精密に出来ています。強い衝撃を加えたり落としたりしないでください。また、本体内部は調整されていますので、不要な改造・分解は行わないでください。

- マイク変換コード“Ｄシリーズ”で電源を供給している場合は、乾電池が入っていても乾電池では動作しませんが、無線機の電源を切れば自動的に乾電池動作に切り替わりますのでご注意ください。
- 外部電源アダプターで電源を供給する場合は、必ずＰＳ－３（弊社製別売　￥１，８９０）をご使用ください。
- アンテナのＳＷＲが高い場合や接地が不完全な場合は、同軸ケーブルの引き回し等により回り込みの原因となる場合がありますのでご注意ください。
- マイク出力コネクター端子部を指や金属（ドライバー等）で触れないでください。故障の原因となります。
- 性能改善のため予告なく仕様およびデザインなど変更する場合があります。

★各部の説明★（１図）



①電源スイッチおよびＦＭ／ＳＳＢ音質切換スイッチ

①電源スイッチをＯＮ（ＦＭまたはＳＳＢの位置）にすると電源が入り瞬時に⑧レベルメーターが電源電圧チェッカーとして動作します。しばらくすると、通常のレベルメーターの動作に戻ります。

ＦＭ運用時には周波数特性の幅の広いスッキリした音声で、またＳＳＢ運用時にはメリハリの効いた了解度の良い周波数特性となり、特にＤＸ時においてその効果を発揮します。

[電源電圧のチェック方法]

①電源スイッチをＯＮにすると同時に、⑧レベルメーターの指針が2～3秒間振れたまま停止します。その位置が緑の範囲内であれば使用可能電源電圧です。

乾電池でご使用の場合、指針が緑の範囲よりも左側の時は、２本とも新しい乾電池と交換してください。

②コンプレッサーレベル切換スイッチ

・HIGH(45dB) ･･･小さな声でも大きな声でも、ほぼ同じレベルで運用できます。
[この時は、バックノイズ（ＴＶの音声、ファンモーター等）も同時に入りますのでご注意ください。]

・LOW(35dB) ･･･普通のＱＳＯに使用してください。マイクロフォンから１０ｃｍくらい離れていても充分な音量でＱＳＯが可能です。

・MANUAL ･･･････バックノイズが特にひどい時とか、コンプレッサーを使用したくない場合にこの位置にセットして使用してください。この場合、③レベルボリュームによる操作が可能になります。

③レベルボリューム

②コンプレッサーレベル切換スイッチをＭＡＮＵＡＬの位置にした時のみマイク入力を調整できるボリュームです。最適な入力（⑧レベルメーターの振れがＯｄＢを超えない程度）になるように調整してください。（ＭＡＮＵＡＬの位置以外では動作しません）

④出力切換スイッチ

このスイッチにより、⑪ＯＵＴ－Ａと⑫ＯＵＴ－Ｂの切換が出来ます。

⑤送信表示ランプ（ＬＥＤ）

①電源スイッチを押すと、⑤送信表示ランプが点滅し受信状態になります。また、送信状態になると、⑤送信表示ランプは連続点灯します。

③ＰＴＴスイッチ

スイッチを押した瞬間に“ピッ”という音が出て、押している間だけ⑤送信表示ランプが点灯し、送信状態になります。離すと受信状態に戻ります。ショートＱＳＯ時に使用すると便利です。また、ＬＯＣＫ（連続送信状態）を解除したい時に使用します。

⑦ＬＯＣＫスイッチ

スイッチを押すと“ピー” という音が出て⑤送信表示ランプが連続点灯し、連続送信状態になります。

⑥ＰＴＴスイッチを押して、離した時に受信状態に戻ります。ロングＱＳＯ時に使用すると便利です。

⑧レベルメーター

マイクアンプの動作状態を関しできます。②コンプレッサーレベル切換スイッチをＭＡＮＵＡＬでご使用の場合は、コンプレッサーはかかりませんので、最適な出力（⑧レベルメーターの振れがＯｄＢを超えない程度）になるように調整してご使用ください。(“③レベルボリューム”欄参照)

また、電源ＯＮ時の2～3秒間は電源電圧チェッカーとして動作します。

⑨ＵＰ／ＤＷＮ（ＤＯＷＮ）スイッチ

ご使用の無線機のアップ／ダウンスイッチと同じ動作をします。詳しくは、無線機の取扱説明書をご覧ください。

⑩マイクロフォン

了解度の良い音質を得るために、高感度エレクトレットコンデンサーマイクエレメントを使用しています。

⑪マイク出力コネクター[ＯＵＴ－Ａ]

⑫マイク出力コネクター[ＯＵＴ－Ｂ]

ご使用の無線機に適合したマイク変換コード（弊社製別売）で無線機に接続してください。（マイク変換コードには、方向性がありますのでご確認の上間違えないように接続してください。）

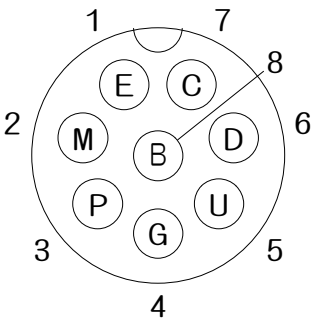
④出力切換スイッチで切り換えている側の無線機が、マイクロフォン端子に電源(DC5V～9V･20mA以上)を供給している場合は、電源供給型マイク変換コード“Ｄシリーズ（弊社製別売）”で接続すると、無線機から電源を供給することができますので、乾電池は不要です。（詳しくは、弊社製マイク変換コードおよびご使用の無線機の取扱説明書をお読みください。）

◎⑪⑫マイク出力コネクターのピン接続と配列

コネクターのピン接続

① Ｅ：アース（マイク信号用）
② Ｍ：マイク信号
③ Ｐ：ＰＴＴ（プレストーク）
④ Ｇ：アース（ＰＴＴ用）
⑤ Ｕ：ＵＰ（アップ）
⑥ Ｄ：ＤＯＷＮ（ダウン）
⑦ Ｃ：Ｕ／Ｄコモン
⑧ Ｂ：ＤＣ給電（＋極）

「８Ｐアドニス配列」（２図）



（ピン側から見た図）

⑬出力調整ボリューム（３図）

出力電圧の調整用ボリュームです。出荷時には適正なレベルに調整してありますが、変調が深すぎたり浅すぎたりする場合には、下記の要領にて適正なレベルになるように調整してください。（②コンプレッサーレベル切換スイッチをＨＩＧＨの状態で行ってください。）

⑬出力調整ボリュームを右（時計回り）に回すと出力は増加し、左（反時計回り）に回すと減少します。ローカル局にモニターしてもらいながら、３図に表示してある回転範囲内を２mm巾以下のマイナスドライバーで注意深くゆっくりと回して調整してください。（中央から左右に約９０度しか回りません。）なお、３図の位置でほぼ中央になります。

⑭無変調防止回路解除リード線

⑮電池ブタ

乾電池で運用する場合は、底面のネジ２本をはずしてから極性を間違えないように単３形乾電池２本を入れてください。なお、乾電池は付属していませんので別にお買い求めください。

［別売オプション］

弊社製別売の外部電源アダプター“ＰＳ-３（￥１,８９０）”を使用すれば、外部電源(DC13.8V)で動作させることができます。

◎無変調防止回路について

⑦ＬＯＣＫスイッチが不用意に押されたり、または通常の交信においても、送信状態が２～３分間続けばアラーム回路が作動し、警報音が約３０秒間鳴った後、自動的に受信状態に戻ります。

［タイマーリセット機能］

ＬＯＣＫ時（連続送信中）にもう一度⑦ＬＯＣＫスイッチを押すと、その時から再びタイマーのカウントを開始します。アラームが鳴っている場合、アラームは止まります。

◎無変調防止回路解除の方法

無変調防止回路を解除する場合、⑮電池ブタをはずし、⑭無変調防止回路解除リード線（黄色）を切断してください。切断したリード線は根元まで取り除くか、または先端部に絶縁テープを巻いて、他の部品やケースなどに接触しないようにしてください。

ご注意およびお願い

- 弊社製以外のマイク変換コードのご使用によるトラブル、故障等については一切の責任は負いませんのでご了承ください。
- アンテナのＳＷＲが高い場合や接地が不完全な場合や、同軸ケーブルの引き回し等により回り込みの原因となる場合がありますのでご注意ください。
- 明るい所でご使用の時、⑤送信表示ランプの点灯が見づらい場合があります。
- 性能改善のため、予告なく仕様およびデザイン等を変更することがあります。

【アフターサービスについて】

お買い上げいただきました製品は，厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い、ご不審な個所、または破損などのトラブルがありましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店、または弊社に保証書を添えてお申しつけくださいますようお願い申し上げます。

SEC　株式会社エス・イー・シー
大阪営業所　〒576-0017 大阪府交野市星田北１－３８－１５
TEL(072)893-3033（代表）　FAX(072)891-2240
ホームページ　http://www.adonis.ne.jp/